

11月10日(土)

おはようございます。

この前清風で、竹中工務店主催の教育関係者を集めた研究会で、京都大学に8月までいらして、9月に神奈川の、中高大から幼稚園まである横浜桐蔭学園に変わられた溝上先生がお話をされました。そこでは示唆に富んだ話がたくさんありましたが、そのなかでも特に心に引っかかったのは、諸君たち若い人が、自分の将来のことを考えていないというのはどういうことかということ、将来のための備え、蓄積を怠っているということなのだということです。これは本当のことだと思いました。これから変化の激しい厳しい時代になると言われているなかで、自分がなにをどのように行っていくかということとはとても難しいわけですが、そのためにこの時期にきちんと考えて備えておくことはとても重要なことだと思うからです。

ずっとずっと以前に私は、自分のためになることがそのまま人のためになるという考え方は大切で、自利利他の精神でいくのでなければならぬと思ったことがあります。私が仏教の勉強をはじめたばかりのときに、校祖平岡岩峯先生から「宏一、いいか、お前は、私が言っている教育方針に関して、浅薄な勉強をして、私の批判なんかをするようであれば勉強する意味はない。そうではなくて、私が言ったさまざまな教育方針に関して、その裏付けと、さらに理解を深めていく、突き詰めていくようなことがお前の役割だぞ」と言われました。

今から思えばこの言葉は、とても未来を見据えた深い深い言葉だったのです。流石に校祖は未来を見据えていらっしゃる感じます。清風は自利利他ということを行います。それは、自分を高めていくことによって多くの人のお役に立とうということです。自分を高めることがそのまま人のお役に立つという考え方です。大切なことは、これは、お願い信仰ではないということです。多くの人のお役に立つという利他のところが大切なのです。とはいうものの、自分を高めていかないと、人のお役には立てません。

さて、六年間あるいは三年間こういう話をいつもここで諸君は聞いているということは、将来諸君らが社会で活躍する上で、他の人とはまったく違うことになるはずですよ。

2008年のノーベル経済学賞をとったポール・クルーグマン、彼はいわゆるアベノミクスの理論的バックボーンになっている人です。日本でアベノミクスが成功しているかどうかは別ですが。彼が21世紀に役に立つ人材は、役に立とうと思っている人だけだと言っています。まさにその通りに私たちの学校は自利利他ということ

を強調していて、自分をしっかり高めていく、そしてそれがそのまま人の幸せにつながると考えています。そういうモチベーションで自分を高め、未来を見据えて自分を育て、自分に蓄積をしていくことが、多くのひとの幸せに結びついていくのです。こういう気概で頑張ってもらいたいと思います。

ラカンホールに、松永有慶、元高野山管長猯下の筆による、弘法大師の綜芸種智院式に書いてある言葉が紹介してあります。それは、

「物の興廃は必ず人に由る。人の昇沈は定めて道にあり」というものです。「物」とは、組織とか国のこと、「興廃」とは、うまく行くか行かないかということ。それは、そこに携わっている人によるということ。そして、その人の「昇沈」つまり、その人がうまく行くかどうかは、「定めて道にあり」であり、その人のこころの成長過程により決まるということ。つまりその人の心がきっちり成長しているかどうかによるということです。逆に言えば、自分の心が成長していく過程を踏んでいるかどうかで、その人の成功・失敗が決まる。さらにその心構えを持った人たちが揃うかどうかによって、組織や国というのは有りようが変わってくるものだという意味です。

これからの諸君の人生にとって、いろいろ迷うことはあるだろうが、清風が説く自利利他の心構えは大切な羅針盤になるのです。

校祖は私に、このように突き詰めよと言われたのだのだと思います。もし校祖が、私が仏教を勉強し始めた冒頭に、「浅薄な勉強で中途半端な批判なんかしたって意味はない。そうではなくて。私が言ったことの理論的裏付けと、さらにそれを突き詰めて深めていくこと、それがお前の役割だ」と言われなかったならば、私は突き詰めて考えなかったかもしれない。本当に未来を見据えたメッセージであったと思います。

そういう意味で、自利利他は諸君の人生の羅針盤となるでしょう。さまざまな困難なことに遭遇しても自利利他の気概で行けば、必ず大きな問題も解決できるはずです。いまは、いろんなことがあり、勉強がうまくいかないとか、家族のことがうまくいっていないとか、クラブで悩んでいるとかあるかもしれませんが。しかし目指すべき基本は自利利他の道だとよく心得て頑張ってもらいたいと思います。

今朝の話はこれで終わります

学校長